くらら開館5周年記念事業

Kurara 5th Anniversary

野村万作・萬斎 狂言の世界2021 ～狂言三代～

2021年 10月1日(金)

19:00開演（18:30開場）

東広島芸術文化ホールくらら　大ホール

【お問合わせ】

東広島芸術文化ホールくらら チケットセンター

〒739-0015 東広島市西条栄町7番19号（10:00～19:00土日祝営業）

Tel. 082-426-5990　http://kurara-hall.jp/ticket

【アクセス】

- ■ JR山陽本線 西条駅下車、徒歩4分（広島駅より約40分）
- ■ 新幹線 東広島駅下車、タクシー約15分
- ■ 芸陽バス「中央公園前」下車0分

＊くらら敷地内には一般駐車場がございませんので、できるだけ公共交通機関でお越しください。
また、近隣商業施設駐車場のご利用はご遠慮ください。
障がい者駐車場が3台ご利用いただけます。（料金無料／予約制）

【チケット料金】　全席指定(税込)

一般：S席5,500円　A席4,500円　B席3,500円

学生：全席(大学生以下)3,000円

[くららフレンズは各席500円引き/学生券を除く]

＊未就学児入場不可。有料託児サービスがございます(公演日1週間前までの予約制)

＊学生券は購入時または公演入場時要学生証提示

＊車椅子席･介助者席はくららチケットセンターのみ取り扱い

＊密集を避けるため、発売初日は窓口販売を行いません。

＊くららにおける新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策については、ご来場前にくららHPをご確認くださいますようお願いいたします。

＊コロナに係る社会的状況により、配席や座席数が変更になる場合がありますので、予めご了承ください。

■「くららフレンズ」先行販売

くららインターネット･くらら電話:8月3日（火）10:00～

■一般販売　8月6日（金）10:00～

くららインターネット･くらら電話

チケットぴあ　https://t.pia.jp/

0570-02-9999　（Pコード507-659）

主催：東広島芸術文化ホール指定管理者

協力：（株）ジーコーポレーション

東広島芸術文化ホール Higashi Hiroshima Arts & Culture Hall くらら Kurara

人間国宝・野村万作と野村萬斎の至芸——親子三代にわたる、大らかな笑いの粋（すい）

人間国宝
野村 万作 のむら まんさく

1931年生。重要無形文化財各個指定保持者（人間国宝）、文化功労者。祖父・故初世野村萬斎及び父・故六世野村万蔵に師事。早稲田大学文学部卒業。「万作の会」主宰。軽妙洒脱かつ緻密な表現のなかに深い情感を湛える、品格ある芸は、狂言の一つの頂点を感じさせる。国内外で狂言普及に貢献。ハワイ大・ワシントン大では客員教授を務める。狂言の技術の粋が尽くされる秘曲『釣狐』に長年取り組み、その演技で芸術祭大賞を受賞したほか、紀伊國屋演劇賞、日本芸術院賞、松尾芸能賞、紫綬褒章、坪内逍遥大賞、朝日賞、旭日小綬章、中日文化賞、ジャパン・ソサエティ賞等多数の受賞歴を持つ。『月に憑かれたピエロ』『子午線の祀り』『秋江』『法螺侍』『敦—山月記・名人伝—』等、狂言師として新たな試みにもしばしば取り組み、現在に至る狂言隆盛の礎を築く。近年では、「楢山節考」の再演に取り組み、大きな成果をあげている。『狂言を生きる』（朝日出版社）を刊行した。

野村 萬斎 のむら まんさい

1966年生。祖父・故六世野村万蔵及び父・野村万作に師事。重要無形文化財総合指定保持者。東京芸術大学音楽学部卒業。「狂言ござる乃座」主宰。国内外で多数の狂言・能公演に参加、普及に貢献する一方、現代劇や映画・テレビドラマの主演、舞台『敦—山月記・名人伝—』『国盗人』『子午線の祀り』など古典の技法を駆使した作品の演出など幅広く活躍。各分野で非凡さを発揮し、狂言の認知度向上に大きく貢献。現代に生きる狂言師として、あらゆる活動を通し狂言の在り方を問うている。94年に文化庁芸術家在外研修制度により渡英。芸術祭新人賞・優秀賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞、紀伊國屋演劇賞、毎日芸術賞千田是也賞、読売演劇大賞最優秀作品賞等を受賞。世田谷パブリックシアター芸術監督。石川県立音楽堂邦楽監督。東京藝術大学客員教授。

野村 裕基 のむら ゆうき

1999年生。野村萬斎の長男。祖父・野村万作及び父に師事。能楽協会会員。3歳の時に『靱猿』で初舞台後、子方として国内外で多数の舞台に出演。修業を続け、『三番叟』『奈須与市語』を披く。

番組

解説／高野 和憲

萩大名

大名　野村 万作
太郎冠者　内藤 連
亭主　深田 博治
後見　飯田 豪

— 休憩十五分 —

六地蔵

すっぱ　野村 萬斎
田舎者　野村 裕基
すっぱ仲間　中村 修一
〃　飯田 豪
〃　石田 淡朗
後見　内藤 連

あらすじ

萩大名（はぎだいみょう）

近々都から帰国することになった田舎大名が、太郎冠者の案内で、とある庭園に萩の花見に出かける。風流者の亭主が、来客に必ず一首所望することを知っている太郎冠者は、「七重八重　九重とこそ思ひしに十重咲きいづる　萩の花かな」という聞き覚えの歌を大名に教えておく。見事な庭を楽しんだ後、いよいよ歌を詠むことになるが、大名は…。

実力はあっても風流に欠ける大名を風刺するだけでなく、無邪気で大らかな人物として描くところに狂言らしさがある作品です。のどかな風情が漂う舞台を、ごゆっくりお楽しみ下さい。

六地蔵（ろくじぞう）

田舎者が地蔵堂に六体の地蔵を安置しようと都に仏師を探しにいく。すると徒者（いたずらもの）のすっぱ（詐欺師）が声をかけてきて、自分こそが真の仏師であると偽り、翌日までに六地蔵をつくる約束をして田舎者と別れる。すっぱは仲間を呼び出し、地蔵に化けて田舎者をだますことにする。さて翌日、田舎者が地蔵を受け取りにやって来ると、地蔵は三体しか見あたらない。もう三体はどこにと問うと…。

演者が所狭しと舞台を駆け回る賑やかな作品です。すっぱは田舎者をだまし通せるのでしょうか。本舞台と橋掛りを上手く使った、狂言ならではの表現もお楽しみ下さい。

東広島芸術文化ホール
Higashi Hiroshima Arts & Culture Hall
Kurara 5th Anniversary
〒739-0015 東広島市西条栄町7番19号（10:00～19:00土日祝営業）
Tel. 082-426-5990　http://kurara-hall.jp
東広島芸術文化ホール　http://kurara-hall.jp